

報告

第 30 回中国・四国地区天文教育研究会報告

～天文教育普及研究会 中国四国支部集会～

山根弘也（呉市かまがり天体観測館）

1. はじめに

2022年5月15日（日）に第30回中国・四国地区天文教育研究会（2021年度中国四国支部集会）をオンライン形式で開催しました。コロナ禍以前は参加者同士の交流を重視して、情報交換の時間が長くとれるよう、対面形式で2日間の時間を確保してきました。今回は直前まで対面形式での開催も検討したもののこの社会状況ではまだ難しいと判断し、前回と同様にオンライン形式での開催（Zoomを使用）としました。大切にしてきた直接の交流の場を持たないという非常に残念な面はありましたが、今までのような直接現地での対面形式ではほとんどご参加いただけなかった遠方の方、他支部の方の参加もあり、オンラインのよい面も大いにありました。

参加者は遠方の方の参加も含め、24名（うち中国四国支部15名）、発表は4件（うち招待講演1件）でした。

2. 内 容

2022年5月15日（日）

■10:00 開会行事（挨拶、自己紹介など）

■11:00 招待講演

☆「日本の宇宙開発 活動のご紹介

～人類の生活の質 改善への貢献～」

小澤正幸さん

（徳島県立あすたむらんど、元 JAXA 宇宙ステーション安全ミッション保証室長）

■12:30 昼休憩

■13:30 発表・報告 座長：山根弘也

☆「コロナ禍での教育普及活動」

小田 玄

☆「暦から地球軌道の離心率を求める」

中村正人（日本大学理工学部）

☆「67年ぶり(?)の2022年博物館法改正」

松尾 厚（山口大学非常勤講師）

■15:10 事務連絡・協議

■16:00 閉会

実行委員：安藤 徹（委員長）、竹内幹蔵、
山根弘也

3. 招待講演

元 JAXA の職員で、ロケットや宇宙ステーションなどのミッションで安全管理や品質保証を担当されていた小澤正幸さんに「日本の宇宙開発 活動のご紹介 ～人類の生活の質改善への貢献～」というタイトルでご講演いただきました。現在、小澤さんは徳島県立あすたむらんど子ども科学館でプラネタリウムの解説などをされています。

まず、国際宇宙ステーションについて、特に日本の貢献に焦点を当ててお話いただきました。中でも、これまで私自身はあまり知る機会のなかった宇宙ステーションで実際に採用されている安全設計・管理や考え方について、リスクの洗い出しや対策の立て方など、例や画像を交えながらとても詳細な部分までお話いただき、観望会や天文イベント等を開催する際の安全対策を考える上でとても参考になりました。

次に、宇宙開発の歴史、JAXA の役割・活動などを現場におられた経験や立場からお話

をいただきました。このあたりも安全管理に携わっていた小澤さんならではの視点でのお話がふんだんに盛り込まれており、普段触れる宇宙開発の話とは一味違うとても興味深いものでした。

最後に、実際の宇宙飛行士との会話から出た安全と保険料の関係の話や宇宙空間での太陽の見え方など、現場におられた方にしか知ることのできない裏話も披露していただき、講演会は終了しました。

4. 一般発表

今回は、3 件の一般発表がありました。最初に、小田さんから「コロナ禍での教育普及活動」というタイトルで、コロナ禍の前まで実施していた公民館での観望会の現状や、自身が外部顧問を務められている学校での教育活動との中でコロナ禍において配慮した点などをお話いただきました。また、1990 年に開始し、現在まで続く太陽観測のデータの扱いについて(デジタル化やアーカイブなど)、参加者に意見を求められる場面もありました。

次に、上田さんから「暦から地球軌道の離心率を求める」というタイトルで、春分⇄秋分の日数間隔のずれから地球軌道の離心率がわかることをお話いただきました。これはご自身が大学初年次に行っている物理学の授業で気付いたとのことでした。

一般発表の最後に、松尾さんから「67 年ぶり(?)の 2022 年博物館法改正」というタイトルで、社会教育分野に特に関係の深い、博物館法の改正についてお話いただきました。

た。他の法改正と合わせての改正はそれなりにあったそうですが、単独の改正としては実に 67 年ぶりとのことでした。また、改正によるメリットや学校教育分野・一般普及分野におよぼすと考えられる影響についての質問にもお答えいただきました。

5. おわりに

実行委員の確認不足で、四国天文協会の集会と日程が重なってしまったことや開催のお知らせから実施までの期間が短かったこともあり、例年よりも発表数・参加者数が少なかったのは反省するばかりです。

また、結果的には前回に引き続きオンライン形式での開催となりましたが、実行委員会では社会状況をみながら、最後まで対面形式での開催を模索しました。次回こそは対面での開催が実現できるように準備を進めていくつもりです。

最後に今回の支部集会を開催するにあたり、多大なご協力をいただいた事務局のみなさま、ご講演いただいた小澤正幸さん、参加者のみなさま、その他関係のみなさまにこの場を借りてお礼申し上げます。



山根弘也

* * * * *